

差出人： [日本学術会議事務局](http://www.rpsj.org)
宛先： info@rpsj.org
件名： 【SCJ】日本学術会議ニュース・メールNo.730
日付： 2020年11月20日 15:00:32

=====
** 日本学術会議ニュース・メール ** No.730** 2020/11/20
=====

1. 【ご案内】令和3年度代表派遣会議の推薦募集について
2. 【開催案内】学術フォーラム
「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取組」
3. 【開催案内】日本学術会議公開webシンポジウム
「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」

■-----
【ご案内】令和3年度代表派遣会議の推薦募集について
-----■

令和3年度代表派遣会議の推薦募集を開始致します。

日本学術会議では、世界の学界との連携、国際学術団体の運営への参画、学術に関する動向の把握、研究の連絡並びに情報の収集及び交換等を行うため、外国で開催される学術に関する国際会議等に学術会議の代表を派遣しています。

日本学術会議の代表として参加すべき必要性の高い国際会議がございましたら、ご所属の委員会委員長又は国際学術団体に対応する分科会委員長または世話人（以下「関係委員長」）へご相談下さい。関係委員長の推薦が必要となります。

なお、代表派遣の対象となる国際会議は、当会議が加入している国際学術団体が主催又は共催する総会、理事会等を原則とされるようご留意願います。

また、日本学術会議では、ディスカウント・エコノミー相当のフライト代を負担させて頂きます。応募多数の際には、ご希望に添えない場合もございますので、予めご承知おき下さい。

※オンライン会議も募集対象となります※

令和2年度の代表派遣実施計画では、新型コロナウイルス感染症に係る今般の情勢を考慮し、オンライン形式となった会議への出席についても、派遣者は、日本学術会議代表として投票権を持って国際学術団体の総会や理事会等に参加し、通常の代表派遣と同様に、国際学術団体の運営への参画や、学術に関する動向の把握、情報交換を行うものであることから、代表派遣の一種として取り扱いました。

令和3年度も、令和2年度と同様に、オンラインでの出席も代表派遣の一種として取り扱うことを検討しています。オンライン開催の可能性がある会議についても、日本学術会議の代表派遣とすべき会議がございましたらご提出ください。

なお、オンラインでの開催形式が決まっている会議は航空券のお見積書は不要です。現地出席・オンライン出席等、開催形式が決まっていない場合は必ずお見積書をご提出ください。

【募集対象会議】

開催初日が令和3年4月1日～翌年3月31日までの会議

【募集締切】

令和3年1月7日（木）正午〆切 [期限厳守・必着]

(※関係委員長(世話人)からの提出の〆切日となります。)

【手続き】

申請手続きは、関係委員長からの推薦が必要となりますので、関係委員長までご相談下さい。

【代表派遣会議HP】

<http://www.scj.go.jp/ja/int/haken/index.html>

【日本学術会議が加入している国際学術団体】

http://www.scj.go.jp/ja/int/link_kanyu.html

ご質問等ございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

<問い合わせ先>

日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）室 代表派遣担当

TEL：03-3403-5731 FAX：03-3403-1755

E-mail: kokusaidaihyohaken.group*cao.go.jp

(*を@に変更してお送り下さい)

■-----
【開催案内】学術フォーラム

「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取組」

-----■
・日時：2020年11月28日(土) 13:00-17:00

・場所：オンライン開催

・主催：日本学術会議

・開催趣旨：

日本学術会議では、新型コロナウイルス感染症の流行に対して、第24期においてふたつの提言（提言「感染症の予防と制御を目指した常置組織の創設について」及び提言「感染症対策と社会変革に向けた ICT 基盤強化とデジタル変革の推進」）を公表した。両提言は、日本学術会議として中長期的な視点から、新型コロナウイルス感染症のような大規模感染症を、予防・制圧することを目指して審議した結果である。

現在、冬季に向かって新型コロナウイルス感染症の再流行の兆しが見える中、両提言を踏まえて、現在の情勢を検討するとともに、新型コロナウイルス感染症についての学術の成果を発信する。

国内には新型コロナウイルス感染症の再流行に対する不安感が広まっており、本学術フォーラムの目的は、学術の取組と成果を広く発信し、日本医学会連合との連携により、学術界全体として新型コロナウイルス感染症に取り組んでいる姿を明らかにすることで、社会に広がる不安感とそれにともなく様々な社会問題の解決に資することである。

本フォーラムは、日本学術会議と（一般社団法人）日本医学会連合が共催して実施するものであり、今後、両団体が協力して新型コロナウイルス流行に対応する第一歩となるものである。

・次第：<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/303-s-1128.html>

・参加費：無料

・要・事前申し込み：以下のURLからお申し込みください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>

・問合せ先：

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34

電話：03-3403-6295

■-----
【開催案内】日本学術会議公開webシンポジウム

「COVID-19パンデミックを契機として考える日本の結晶学の現状と今後」

-----■
・日時：令和2年11月29日（日）10：00～15：30

・場所：Webexによるオンライン開催
(配信拠点：筑波大学数理工学系物理学域エネルギー物質科学研究センター)
*参加URLは、申込者にメールで連絡致します

・参加申込み：以下のURLよりお申し込み下さい（11月24日（火）締切り）
<https://pf-form.kek.jp/crsj2020-satellite-sankaform/>

・参加費：無料

・主催：日本学術会議 化学委員会
日本学術会議 化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会
日本学術会議 化学委員会IUCr分科会

・開催趣旨：

日本結晶学会創立70周年にあたる2020年にCOVID-19のパンデミックという事態が発生しました。このような危機への対応、および、今後の危機回避に向けて、結晶学、および、これに密接に関係する学問に携わる我々がどのような貢献ができるかを情報共有し、次世代を背負う大学生、大学院生、そして社会にこの情報を発信することを目的とします。

シンポジウムでは、

- ・コロナウィルスに係る構造生物学的研究の進展についての解説
- ・海外からスクリプス研究所統合構造計算生物学部門長のWilson博士のライブ講演
- ・環境問題に配慮したコロナ対策を含めた放射光利用研究の現状とこれから
- ・医薬品開発、ワクチン開発という社会での一番の関心事ともいえる研究課題の方向性とこれに向けた支援

をテーマとして、6人のそれぞれの分野の専門家が、一般の方にもわかりやすいことに配慮した講演を行い、ウィズ&アフターコロナの時代の「新しい生活様式」が模索されている現在、科学研究者に何が期待され、どのような貢献をなすうるかを議論します。

・次第：<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/297-s-1129.html>、
<https://crsj.jp/activity/annualMeetings/nenkai2020/satellite.html>

・問合せ先：

シンポジウム運営事務局 sec1129*phs.osaka-u.ac.jp
(*を@に変更)

★-----☆

日本学術会議では、Twitterを用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj_info です。

日本学術会議広報のTwitterのページはこちらから

http://twitter.com/scj_info

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://jssf86.org/works1.html>

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

過去のメールニュースは、日本学術会議ホームページに掲載しております。

<http://www.scj.go.jp/ja/other/news/index.html>

【本メールに関するお問い合わせ】

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できません。

本メールに関するお問い合わせは、下記のURLに連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34